

【来自厚生労働省的通知】

参観在神奈川県一所小学举行的中国残留孤儿・門伝富美女士的“讲述”课所感

【厚生労働省からのお知らせ】

神奈川県かながわけんの小学しょうがっこうで開催かいさいされた中国残留孤儿・門伝富美ちゅうごくざんりゅうこし もんでんふみさんの「語り部」授業かたべ じゅぎょうを参観さんかんして

○平成 26 年 11 月 27 日，在神奈川県藤泽市高砂小学校，以中国残留孤儿・門伝富美女士为讲述人，举办了一堂以“祈祷和平”为题的讲述战争体验课。这是神奈川県作为“讲述战争体验传于后世事业”的一个环节，在神奈川県中国归国者定住サポートの会的大力支持下尚予以举办，当天大约 100 名三年级学生倾耳细听，并纷纷举手提问等。



○去る平成 26 年 11 月 27 日、神奈川県藤沢市立高砂小学校で、中国残留孤児の門伝富美さんを語り部として、「平和への祈り」と題した戦争体験を伝える語り部授業が開かれました。これは、県内の「戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業」の一環として、神奈川県中国帰国者定住サポートの会の協力により開催されたもので、当日は 3 年生約 100 人が耳を傾け、質疑等も活発に行われました。

○ 为了让地区社会里起着关键支援作用的地区居民能够进一步理解遗华日本人，并以将遗华日本人等的经历传于肩负未来的年轻人之目的，厚生劳动省自平成 20 年度起每年在全国各地举办“为了加深对遗华日本人理解的论坛会”。今年度于平成 26 年 10 月 18 日已在横滨市举办，当天全场爆满，盛况空前。在此，向各协助人员表示衷心的感谢。

○ 在横滨市举办论坛会的同时，并为了实现神奈川县的“讲述战争体验传于后世事业”的派遣归国者讲述人，经过多次协商的结果，在神奈川县政府、神奈川县中国归国者定住サポートの会、藤泽市立高砂小学校以及神奈川新闻社的协助下，终于才实现了这次“讲述课”。对此作为负责遗华日本人等支援工作的本室的全体人员深感欣慰，向各协助人员深表谢意。

○ 厚生劳动省将把这次的“讲述课”作为今后普及启发遗华日本人等工作的先驱，殷切希望全国各地政府也皆能举办。本省还拟定推进有关“讲述课”的经验等的信息交流。

（厚生劳动省社会・援护局援护企画课中国残留邦人等支援室长補佐 土元敏信）

○ 厚生労働省では、地域社会で支援の要となる地域住民の皆様にご中国残留邦人等への理解を深めていただくとともに、次代を担う若者に中国残留邦人等の方々の経験を語り継ぐことを目的として、平成 20 年度から毎年「中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム」を開催しています。今年度は、平成 26 年 10 月 18 日に横浜市でシンポジウムを開催し、当日は会場が満員となり盛況でした。関係者の皆様のご協力等に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

○ また、横浜市でのシンポジウム開催と並行して、神奈川県「戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業」である中国帰国者の方による「語り部」の派遣について、実施に向けた協議を重ねて参りました結果、神奈川県、神奈川中国帰国者定住サポートの会、藤泽市立高砂小学校及び神奈川新聞社の皆様のご尽力等により、この「語り部授業」が実現しました。中国残留邦人等の支援を担当する当室といたしましても大変喜ばしいことであり、関係者の皆様にご感謝申し上げます。

○ 厚生労働省では、今回の「語り部授業」について、今後の中国残留邦人等の普及啓発事業の先駆的な取組として考えており、是非、全国の自治体においても開催を検討していただくとともに、「語り部授業」のノウハウ等についての情報交換等を進めていきたいと考えています。

（厚生労働省社会・援護局援護企画課中国残留邦人等支援室長補佐 土元敏信）

【当日の様子を伝える神奈川新聞記事】2014 年（平成 26 年）11 月 28 日付け

【《神奈川新聞》報道了当天的情况】2014 年（平成 26 年）11 月 28 日刊发

中国残留孤児だった帰国者が「平和への祈り」と題して戦争体験を伝える「語り部」授業が 27 日、藤沢市立高砂小学校（藤沢市辻堂西海岸）で開かれた。講師は、残留孤児 1 世で 1996 年に永住帰国した門伝富美さん（79）＝横浜市保土ヶ谷区新井町。壮絶な体験談に 3 年生約 100 人が耳を傾けた。

岩手県出身の門伝さんは 5 歳のとき家族 5 人で旧満州・黒竜江省へ渡り、依蘭開拓団に入植。9 歳で父親が病死、10 歳で終戦を迎えた。参戦したソ連軍からの徒歩での逃避行、方正県での収容所生活の中で、中国で生まれた妹を含む家族全員を亡くし、中国人の養父母に引き取られた。

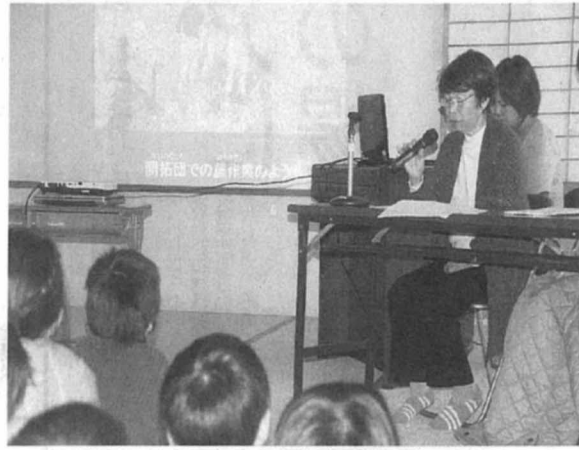
現在は日本語やパソコンの勉強を続けながら穏やかに暮らす門伝さんだが、「ソ連軍の戦闘機や銃撃の恐怖のあまり今でも記憶が途切れ途切れ。そんな体験を皆さんにはしてほしくない。自由に勉強できるのも平和だからこそ」ということをかみしめてほしい」と静かに語り掛けた。

子どもたちは「逃避行中に」おばあちゃんが川に飛び込むとしたことが心

「平和な世界こそ」

中国残留孤児、体験伝え

藤沢・高砂小



旧満州での生活や戦争体験を子どもたちに語る門伝さん
＝藤沢市立高砂小学校

に残った。「収容所に死体一家族に毛布 1 枚しかなかったが山になつていったこと、1 たことに驚いた」などと感じ

想を話し合った。
県の「戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業」の一環。
神奈川中国帰国者定住サポートの会が協力した。

【神奈川県の网页】

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6172/>

讲述战争体验传于后世事业

— 祈祷和平 —

根据学校及地区（儿童会、PTA、町内会等）的要求，向各地派遣战亡者遗属、原爆被爆者以及中国归国者（残留孤儿、残留妇人）予以讲述。通过讲述各自的战争经历和祈愿和平，来加深与后代人的交流。

（派遣讲师的组织及演讲内容）

神奈川县中国归国者定住サポートの会

在战争结束时，从中国回归日本的途中，因种种原因被养父母收养的遗华日本人，讲述在中国的生活和归国后的生活等等。

【神奈川県ホームページより】

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6172/>

戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業

— 平和への祈り —

戦没者遺族、原爆被爆者、中国帰国者（残留孤児・残留婦人）の方たちを、「語り部」として学校や地域（子ども会、PTA、町内会等）の要請に応じて派遣します。それぞれの戦争体験や平和への思いを語り、次世代との交流を深めていきます。

（講師派遣団体及び講演内容）

神奈川中国帰国者定住サポートの会

終戦直後、中国から日本への引揚げ時に、様々な事情により中国の養父母に預けられた方たちの、中国での生活、日本に帰国してからの生活などを語ります。